



整形外科部長あいさつ



整形外科部長
日本医科大学整形外科学講座
非常勤講師
小野寺 剛

はじめに

福島県浜通り地区の整形外科医療は残念ながら、開放骨折などの緊急性の高い手術や機能再建などの専門性の高い治療がどこの医療機関でも受けられる状況にありません。それは、外科的手術を担う市内中規模以上の病院の多くが整形外科常勤医師1名ないし2名であり、一医療機関で全ての分野を網羅することができないためです。そのため各領域の専門医を擁する市立総合磐城共立病院へ紹介するなど、各施設が苦勞して診療に当たっているのが現状です。

その一方で、ロコモティブシンドロームと言われる運動器疾患が、内臓器疾患のメタボリックシンドロームと同様に寝たきりにつながるリスクが高く、生命予後をも左右することが徐々に知られ始めており、今後、超高齢化社会が進行する中でわれわれ整形外科医のニーズがますます大きくなっていくことが予想されます。

絶対的な整形外科勤務医不足のなか私どもは、東京に本部を置く日本医科大学整形外科・リウマチ外科学教室の支援のもと、このたび3名の常勤医体制とすることができました。専門外や治療困難症例については、大学教授や准教授、講師等の派遣診療による手術を行うことで、今後、首都圏と同等な先進性の高い医療を提供してまいります。

～当科の特徴～ 難易度の高い脊椎手術にも対応

当院は、地域の基幹病院として又、救急指定病院として骨折などの外傷手術が多く、いわき南部地区に限らず、いわき北部や北茨城地区からも日常的に外傷患者の救急搬送に応需し、早期社会復帰のために積極的な手術治療を行っています。

また、先代部長の小浜金吾先生に始まる伝統から、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症な

どの脊椎疾患の手術症例が多いのも当科の特徴です。しかもいわき市内で手術を行える脊椎外科医が1、2名しかいない現状に、近年手術症例が増えています。幸い私が大学の整形外科学講座脊椎分野の非常勤講師を務めていることもあり、ある程度お待たせすることなく日常的に手術が行える環境となっています。再発症例などの難易度の高い脊椎手術も増加傾向ですが、大学病院との連携をしながら随時対応しています。

また加齢に伴う関節疾患については、日本医科大学整形外科学教室の高井信朗主任教授が膝関節再建手術の専門家として国内外に著名であることから、当院にも何度も人工関節手術指導に来院しており、実際に執刀されています。

さらに最近では最先端のナビゲーションシステムを用いたナビゲーション支援下人工関節置換術も行っており、術後成績向上、安全な手術のために役立てています。

四肢（肩や上肢、足部）の機能再建の手術につきましては、大学の専門医を招いての手術あるいは都内大学病院への紹介で対応していますが、早期対応が求められる場合には、県内あるいは近隣の医療機関への紹介も随時行っています。

どうぞ宜しくお願いいたします。

整形外科病棟看護師長あいさつ



整形外科病棟看護師長 小島 里美

多職種連携で患者様をサポート!!

整形外科疾患で主に手術を目的とした患者様が入院するのが、私が現在勤務するA4F病棟です。入院すると医師・看護師・看護助手の病棟スタッフだけでなく、その

他いろいろな部門のスタッフが関わってきます。薬剤師は薬剤の調剤や服薬指導、退院後に自己注射を行う場合の注射指導などを行います。栄養士は栄養管理だけでなく患者様のところを訪問するミールラウンドを通して、患者様の摂食状況を観察し、より食べやすく食事が取れるように工夫しています。ベッド上での安静度に制限があり、起き上がって食事ができない患者様に対しては、おにぎりやおかずを1口分ずつ串に刺した食事の提供をしています。リハビリが始まれば理学療法士、嚥下に問題がある場合には言語療法士が関わってきます。

入院中だけでなく、退院後の不安や問題の解決・調整を援助する医療ソーシャルワーカーも入院前の外来の時点から関わりを持ち、相談に乗っています。これらの部

門のスタッフと、毎週リハビリカンファレンスや手術前カンファレンス、実際にリハビリを行っているところを見ながら、回診などを通して情報を共有し、今後の方向性などの話し合いを行っています。また、高額医療費などの医療費については、医事課職員、その他放射線技師・臨床検査技師など本当に多くのスタッフが協力し、患者様により良い医療を提供できるように取り組んでいます。

当院の基本理念は「すべてのひとを、笑顔にするために」(Your smile reaches all)です。患者様やご家族の笑顔を見られることが、私たちの笑顔にもつながります。ただこの笑顔は患者様・ご家族様と協力していかなければ達成できません。一緒に頑張っていきましょう。宜しくお願いします。

整形外科医座談会



司会 地域連携支援室
室長 高木 孝子

高木 本日は整形外科部長の小野寺先生をはじめ3人の先生方にお集まり頂き、「いわき南部地区の整形外科の現状と当院の役割」についてお話を伺います。それではよろしくお願ひ致します。

小野寺 まず、いわき市全体をみても面積が広く人口も30万人を超えています。さらに、原発事故による避難の方を受け入れており、現在約35万人と言われている中、整形外科医に限らず、勤務医が非常に少ないと感じます。

高木 お医者さんが足りていないということですね。



小野寺 そうですね。全国的にみても、福島県は人口10万に対する医師数が都道府県別でワースト6であり、さらに、いわき市は47中核都市の中でワースト4となっています。

いわき南部地区で整形外科の手術ができる病院は当院のみであり、救急車の応需要請が集中しています。さらに茨城県県境に位置しているため、茨城県からの救急車の応需要請にも対応しなければなりません。

整形外科 医員

かとう ひろき
加藤 大希

埼玉県出身
平成27年
日本医科大学医学部卒



高木 先生方が疲弊してしまうのでは？実は地域連携支援室を通して緊急の紹介患者さまをお受けする際、先生方が忙しすぎて、頼みづらいと感じていました。

篠塚 実際、私が診療初めの頃、外来患者さまが非常に多く、その中で急患を診るのは大変でした。午後は大切な手術も控えているので…。

現在は加藤先生が来てくれ、3人体制になったことで大変助かっております。

加藤 はい、頑張ります。(笑)

小野寺 開業医の先生方にもう少し診て頂けると助かります。

例えば内科のクリニックで骨折を見つけたら、まず、整形のクリニックに紹介が行き、整形のクリニックの先生の判断で手術が必要となった場合に病院に紹介となれば非常にありがたいです。

いわき南部地区の 整形外科の現状と 当院の役割

高木 システム作りということですか？

小野寺 そうですね。地域の整形外科クリニックや病院が協力して個々の役割を果たし患者さまを機能的に回しているシステムが理想です。

また、お薬だけで落ち着いているような患者さまであれば、近所のクリニックに戻られるのが良いと思います。頼られるのはありがたいことなのですが…。最初に申したように、手術ができる病院が限られており、いわき南部地区では当院のみなので、手術が必要な患者さまを1人でも多く受け入れられようとするのが当院の役割だと思います。

篠塚 私も同じ思いです。手術や入院が必要でない患者さまの中で、診断やお薬の調整がの方はクリニックに通われるのが理想かと思っています。

クリニックにはクリニックの役割が、病院には病院の役割があると痛感しています。小野寺先生の言われた通り、より多くの手術が必要な患者様を受け入れて行くことが当院の役割と考えます。

加藤 私も先輩方と同じ思いです。私は呉羽総合病院に来てまだ、数カ月なのですが、高齢者の骨折が多いと感じております。中でも元気な高齢者が多いので手術を行ってリハビリをして頂き、在宅復帰ができればと思っています。



整形外科部長

おのの たけし
小野寺 剛

神奈川県出身
平成5年
日本医科大学医学部卒
脊椎脊髄病医認定

高木 本日は、先生方から、いわき南部地区に限らず、深刻な医師不足であるという現状、そしてクリニックとの連携とシステム作りの大切さ、当院の役割をお聞きすることができました。

最後になりますが、先生方「診療を行うにあたって大切にしていること」をお聞かせ願ひします。

小野寺 私は患者さまを診察する際は自分の家族を診る様なつもりで診療するよう心掛けています。



整形外科 医員

しのづか ようすけ
篠塚 洋祐

埼玉県出身
平成25年
日本医科大学医学部卒

篠塚 私は当たり前のことですが、「患者さまの話を聞く」ということを大切に診療を行うようにしています。

加藤 私は「礼儀正しく」をモットーに診療していきたいと思っています。

高木 先生方、本日はありがとうございました。これからも地域の皆さまのために宜しくお願いします。



整形外科領域における3DCT活用法

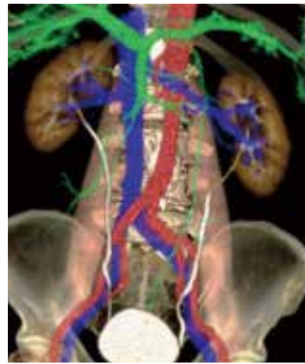
放射線科

宮下 昌之

はじめに

近年、術中ナビゲーションシステムといわれる手術中の支援システムが大病院で普及しつつあります。その中で当院は3DCTを用いた術前シミュレーションに着目しました。

以前より術前評価としてCT画像は必要であり、3方向の断面と3D画像を提供していました。そこで手術の中でも血管の損傷リスクや神経損傷のリスク、他臓器損傷リスクがある場合には、造影剤を用いた3D画像評価を手術支援として画像提供しました。



撮像手技

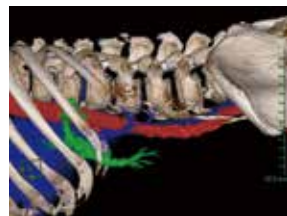
現在、当院で稼働しているCT装置はAquilion CXL 64列0.5mmスライスで、撮影して画像データから骨や筋肉などを抽出しました。

また不要な被ばくリスクを避けるため、撮影を2回にして必要なすべての血管の再構成処理に成功しました。

今後の展望

術中ナビゲーションシステムは、手術中に最大限の能力を発揮しますが、造影剤を用いた術前シミュレーション3DCTでは実際の手術体位から臓器のイメージングができ執刀医の視野を表現できます。

また骨の変形や臓器、血管の奇形にも3D評価が容易であり、手術適用の有無の判断材料の1つとして重要になっていくでしょう。



3DCT



3DCT



3DCT+2DCT

短時間通所リハビリテーションのご案内

当事業所は、平成21年の介護保険改定で新設された1時間以上2時間未満の短時間通所リハビリを実施しています。開始当初から、「短い提供時間内でいかに日常生活の変化を促せるか」ということに取り組んできました。

「実態調査」に理学療法士が同行

当事業所の短時間通所リハビリでは、実態調査を行う際に相談員だけでなく、理学療法士と一緒に利用者宅に伺います。理学療法士が介助が必要となるまでの経緯や現在の身体機能、自宅や周辺の環境を確認し、リハビリにより改善が期待できる動作能力だけでなく、活動範囲の広がりや社会参加



の可能性をその場で提案できるよう心掛けています。

必要に応じてリハビリテーション会議を行うことで、ケアプランやサービス内容を検討する機会を増やし、目標や目指す方向性の共有を図り、生活の変化を促していきけるよう取り組んでいます。

プログラムを生活に結びつける

短い提供時間を有効活用するため、実施プログラムを難易度やリスクなどいくつか

の要素に分け、専門知識が必要なものは理学療法士が個別リハビリとして提供し、それ以外で転倒リスクなどが高い動作練習は介護員が見守り、リスクが低いものは自主トレーニングとして、ご自身で行うといったように役割分担しています。

また、プログラムには実際に獲得したい活動の内容を取り入れ、達成感や生活への導入を意識できるようにしています。

呉羽総合病院

リハビリテーション科 (担当: 郡司)

直通電話番号

TEL (0246) 63-2183

FAX (0246) 62-9009

第15回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどいおよび合同研修会の報告



緑川院長の講演の様子

平成29年11月30日(木)、ガーデンア・イベントホールにいわき南部地区の多職種総勢136人が集いました。「“生きる”を考える、支える」と題して当院院長・緑川医師の講演、「口腔ケアについて」塩歯科医院塩歯科医師の講演、「多職種で在宅を支えるための疑問点を解決しよう」と題して、パネルディスカッションが行われ活発な意見交換と情報の共有が行われました。

「第16回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどいおよび合同研修会」のお知らせ

【日時】2018年5月31日(木) 18:30～

【場所】勿来市民会館

【内容】緑川院長による講演や事例検討会を予定しております。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

■地域連携支援室 TEL: 0246-62-3178

認定がん専門相談員

がん患者さまのサポート



地域連携支援室 高木 孝子

この度、専門の見地から少しでもがん患者さまに寄り添うことができるように「認定がん専門相談員」の資格を取得いたしました。

当院では緑川院長（がん治療認定医）をはじめ、がん性疼痛看護認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師等と連携して患者さまをサポートしています。
また、毎週火曜日はメディカルサロンを開催しておりますので、お気軽にご利用ください。

新任紹介



整形外科 医師 加藤 大希

本年1月より呉羽総合病院に着任いたしました加藤大希と申します。埼玉県秩父市出身です。日本医科大学を卒業後、初期研修の2年間を母校の付属病院で経験し、昨年4月に整形外科学教室に入局、現在に至ります。

まだまだ、駆け出しの整形外科医ですが、さまざまな症例を経験し、いわきの地域医療に貢献できるよう努力いたします。宜しくお願いします。



地域連携支援室 医療ソーシャルワーカー 齊藤 良

4月から地域連携支援室で勤務することになりました齊藤良と申します。社会に出たばかりの未熟者ですが、多くの知識とたくさんの経験を積み、先輩方のような優秀な医療ソーシャルワーカーになれるよう日々努力してまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

医事課からのお知らせ

診療予約専用ダイヤル開設

この度2018年4月2日（月）から、患者様へのサービス向上のため、**診療予約専用ダイヤル**を開設いたしました。

当院では診療予約制度を導入しており、予約優先となりますので、事前の予約をオススメしております。診療予約も可能です。是非ご利用ください。

診療予約専用ダイヤル

☎0246-88-6111

(電話受付時間／平日14:00～16:00)

地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2240
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <http://www.kureha-hosp.jp/>

- 発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1-1
- TEL. 0246-63-2181
- FAX. 0246-63-0552
- URL <http://www.kureha-hosp.jp/>
- 発行人 田中 稔
- 編集 地域連携支援室